２３．皮膚科　臨床研修プログラム　（選択）

1. 研修目標

皮膚および可視粘膜に表れる症状を適切に判断して、診断および治療を速やかに行える皮膚科学的な知識、診断力、治療技能を身につける。

2. 研修期間　4 週～40 週

3. プログラム指導者と参加施設

プログラム指導者　皮膚科　神谷 秀喜
基幹病院　中部国際医療センター

4. 到達目標

《基礎的事項》

1) 発疹の見方（観察）と表現（記載）
2) 皮膚生検と皮膚小手術の習得
3) 皮膚病理組織所見と 1)とをマッチさせ、発疹の理解を深める
4) MED 測定と光線（NBUVB）療法
5) 皮膚テスト：パッチテスト、光パッチテストなどの実施

《疾患》

1) 日常的皮膚疾患（湿疹、皮膚炎群）
2) 皮膚科領域の救急外来と具体的対応
3) 皮膚科領域の感染症の基礎と臨床（細菌、真菌、ウイルス）
4) 高齢者皮膚疾患の対処
   - 褥そう：新しい創傷治癒理論に基づく治療
   - 疥癬：院内感染や流行予防策も含める
5) 内臓疾患の皮膚徴候
6) 皮膚良性腫瘍と悪性腫瘍の診断（ダーモスコピーによる観察も含めて）と治療

5. 方略

1) 外来診療の参加（週 3 日程度）
2) 入院患者の受け持ち（1～3 名程度）
3) 他科入院患者の往診も積極的に行う
4) 関心ある臨床研究テーマを持つ
5) 学会報告、論文作成など研究成果の発表（専門医取得に必要な単位取得）
6) 教育講習会、学会などの参加（専門医取得に必要な単位取得）
7) カンファレンス参加（皮膚科：毎週、病理カンファレンス：隔週

6. 指導体制

1) 研修医は、常に指導医のもとに行動することを原則とする。特に危険を伴うと考えられる検査、処置、および手術は担当指導医の看視下で行う。
2) 救急患者が搬入されたときは、出来るだけその初期診療から関係を持ち診療する。
3) 指導医の誰かが当直をするときは、副直となり病棟での救急処置や時間外患者の救急処置につい

て学ぶ。

7. 評価

指導医は、自己評価結果を随時点検し、研修医の到達目標を援助する。

8. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療
午後	外来手術・生検 レーザー治療 病棟診察処置	外来診療	外来手術、生検、 レーザー治療	特診外来	外来検査、病棟診察
夕方	16:00 Mini Lecture		褥瘡カンファレンス		16:00 Mini Lecture
備考	組織検討会（隔週）：病理医 入院患者：すべて主治医と併記　患者診察とカルテ作成 関連学会：（随時記載）				